2006年度授業改善研修参加レポート　所属（国際コミュニケーション学部）氏名　鈴木　規夫

「研修会等名称」
財団法人　大学コンソーシアム京都主催
第 12 回ＦＤフォーラム　学生が伸びる大学教育

場所：京都産業大学・キャンパスプラザ京都
期間：2007 年 3 月 3～4 日

１．研修の内容

第一日は、樋口祐一氏（作家・京都産業大学客員教授……知り合いであった樋口氏は東進ハイスクールの小論文講師、白藍塾主宰であったのであるが、「作家」というのは初耳ですが……）による基調講演、「大学生の発信力が伸びる」を聴くものの、大学受験産業で培われたこうした手法が、大学のＦＤとどのように関連していくのか、主宰者の意図が今一歩把握できないまま終わる。

「発信力」をキーワードに展開された講演では、「受信」が重視されたこれまでの日本社会とは対照的関係にある「発信」こそが、現代における社会人として生き抜く鍵であり、その変貌過程に適応する学生の育成に何が必要なのかを説くのであるが、その具体的な対処法は、「小論文作成指導とその能力の開発を可能にするカリキュラムの展開」ということにあるという。

樋口氏の説くところにしたがって、大学のカリキュラム改革を実施するのに最も適合的なものは、「アカデミック・ライティング」のコース設置であろう。外国語科目、PC やメディアへのリテラシー教育関連科目、そしてアカデミック・ライティング科目を大学教育の基礎課程に集中的に配置することによって、ここで議論されていた大部分の問題は解決されるはずである。その意味では、新しい知見に接したという印象からは遠い。

第二日は、午前午後とも第２分科会「大学における国際化への対応－国際感覚をもった学生の育成－」に参加。

分科会における話題提供テーマと提供者は以下のようである。

大森不二雄（熊本大学　大学教育機能開発総合研究センター教授）「グローバル化する知識社会に対応する大学教育」

勝又美智雄（国際教養大学教授）「「国際的に活躍できる人材の育成」を目指す国際教養大学の実験」

鈴木健司（同志社女子大学国際交流センター所長）「国際感覚・国際主義・国際化－同志社女子大学の場合－」

大森氏は元文部官僚、勝又氏は元新聞記者ということで、伝統的な大学教育そのもののあり方に、予めかなり著しいネガティヴなイメージを持っているようなので、「大学の歴史」や「自治団体としての大学」、欧米の大学の成り立ちそのものについてどのような見識があるのか、すこぶる疑問であった（相対的に若い鈴木氏にそれがあったというわけではないが……）。

しかし、秋田の都市生活とは隔絶された空港近くの空間に設立された国際教養大学が、授業はすべて英語、一年生は全寮制、一年間の留学義務づけ、図書館は２４時間オープン、開学以来志望者殺到、偏差値東北大学を凌ぐ勢い等々であるというところは注目されてよい。

２．研修の成果

１　愛知大学においても、秋田の国際教養大学のカリキュラムや教学システムなどについて、さらに詳しく検証していくことが必要であろう。笹島キャンパスと平行して開発されるべき豊橋キャンパスの活用方法についても示唆に富むものが多いといえよう。

２　１の観点からも国際教養大学への調査が是非必要であろう。

３　「グローバル化する知識社会に適合した大学教育プログラム」（大森報告）に関連して、グローバル化する知識社会で活躍できるエンプロイアビリティーを教育の「見える化」を通じて行う方法論の検討が、愛知大学においても必要であろうということがより鮮明となった。

４　最新の文科省の方針と省内合意では、海外において大学分校を設置することが可能であるという情報がもたらされた。高等教育課に確認を要するが、もし、これが事実であるとすれば、愛知大学は、たとえば、上海に東亜同文書院大学の後継高等教育機関を分校として設置が可能であるということになる。現代中国学部の教育システムの発展形態として、旧東亜同文書院大学の再興のような形態の教育研究機関創設を考えていってもよいであろう。さらに、同様の海外分校の設置を、基本的にＩＶＹリーグの大学院へ進学させる前段階の大学などとして、アメリカにおいて検討してもよいであろう。

５　話題提供者たちにいくつか質問をしたが、その一つに「リベラルアーツとサイエンスとの境目や教育研究上の連係をどのように考えるか」というものがあった。それへの応答から推測すると、どこの大学においても、従来の専門教育のシステムをどのように整備するのかというところで課題を抱えているようである。これは全体としてリベラルアーツそのものの低迷を反映し、何がサイエンスであるのかという認識そのものが乏しいゆえであろう。その意味でも、国際教養大学が学部完成年度からさらに大学院設置を検討しているというところに注目し、参照すべきであろう。

３．授業への研修成果の反映状況

国際文化関係論講義において、日本の高等教育の現状をグローバル化のコンテクストから講じることを予定している。

学 部 長	ＦＤ委員長	ＦＤ委員会	総合企画課長	係